シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	サロンマナーⅠ		
必修選択	必修	（学則表記）	サロンマナーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト３級 サービス接遇検定実問題集３級 就職ハンドブック		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける
到達目標	サービス接遇検定３級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。
評価基準	テスト50％、課題・提出物30％　授業態度等20％
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	サービス接遇検定3級
関連科目	就職対策
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	堀　優子 他1名
実務経験	○
実務内容	ANA客室乗務員　ファーストＣＡ資格取得。エアラインスクール、大学での日本の接遇講座業務。 就職支援講師ビジネス専門学校や企業新人研修にて講師業務。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ビジネスマナーとは	授業の目的・到達目標について ビジネスマナーを学ぶ意味を知る
2	サービススタッフの資質	サービス業界で求められているものについて
3	サービススタッフの資質	必要とされる要件の復習・従業要件について
4	専門知識・一般知識	サービス知識、従業知識、一般知識について
5	対人技能（敬語）①	様々な接遇用語・敬語について
6	対人技能（敬語）②	尊敬語・謙譲語・二重敬語について

7	対人技能（一般的なマナー）	動作を行う際の基本・ポイントについて
8	対人技能①	人間関係について
9	対人技能②	一般的なマナー・接遇者としてのマナーについて
10	対人技能③	話し方について
11	実務技能①	問題処理について
12	実務技能②	環境整備・金品管理について
13	社交業務	社交儀礼の業務について
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	カラーコーディネートⅠ		
必修選択	必修	（学則表記）	カラーコーディネートⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。		
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。		
評価基準	テスト50％、提出物30％　授業態度等20％		
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小島由記子　他２名	実務経験	○
実務内容	色彩検定対策講座、パーソナルカラーコーディネーター育成講師 ファッションスタイリスト、ブランディングトレーナーとして現在も活動中		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	パーソナルカラーとは、色の連想	授業の目的・到達目標について パーソナルカラーを学ぶ意味を知る
2	色の心理的効果	色の持つイメージと性質、色の心理的効果について
3	色と光について①	色の見える仕組み、光について
4	色と光について②	眼（視覚）のしくみについて

5	色の特徴について①	無彩色と有彩色、三属性について、色相環の作成
6	色の特徴について②	三属性について、色相環・トーン図の作成
7	色の特徴について③	トーンについて
8	配色（色相、トーン）	配色、色相、トーンについて
9	配色（配色の応用、イメージ配色　他）	配色の応用編について 条件にあった配色をつくる
10	対比と同化	対比と同化について
11	混色・慣用色名	混色の原理・慣用色名について
12	パーソナルカラーの基礎①	パーソナルカラーの基礎について
13	パーソナルカラーの基礎② 復習	各シーズンの特徴について、復習
14	総復習	１～１３回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	必修	（学則表記）	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	7つの習慣Ｊテキスト、夢のスケッチブック		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する
到達目標	・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する ・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる
評価基準	小テスト／レポート：２０％　授業態度：４０％　　提出物：４０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	キャリア支援／就職対策等
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	諸星 理恵　他５名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どの様な状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ

6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
8	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
9	人生のビジョン	１０年後のなりたい自分を考えることにより、入学時に考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深堀りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」は、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第２領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	デッサン・イラストレーション		
必修選択	選択	(学則表記)	デッサン・イラストレーション		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	スケッチブック　鉛筆（H　HB　B　2B　3B） 練りゴム　カッター　30cm定規　色鉛筆		出版社		

科目の基礎情報②			
授業のねらい	観察力と洞察力を養い芸術を理解する		
到達目標	基本的な形・人体を描くことで人体の理解ができるようになっている。 エステやネイル、メイクやヘアのデザインを理解できるようになっている。		
評価基準	テスト40％、提出物40％　授業態度等20％		
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	林　司英奈	実務経験	○
実務内容	画家、イラストレーター、デザイナーとして多方面で活躍。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	デッサンとは 鉛筆の基本的な使い方	デッサンの必要性について 用具使用方法と鉛筆の削り方、グラデーション練習
2	基本的な形態の描き方	基本的な形の描き方について
3	人体の描き方①	パーツの描き方について
4	人体の描き方②	顔と髪型の描き方について
5	人体の描き方③	人体の書き方について

6	基本的な形態の描き方（色彩）	色相・彩度・明度を混色で理解する、グラデーション練習
7	色彩実験とグラデーション練習	着彩について
8	模写と着彩①	デザインを考案し着彩する
9	平面構成①	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について
10	平面構成②	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について
11	平面構成③	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について
12	作品制作①	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
13	作品制作②	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
14	作品制作③	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	皮膚学Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	皮膚学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	皮膚の働きのしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ ・皮膚の基礎知識・美容上大切な皮膚の６つの働き ・皮膚の生理作用・肌の美しさを損ねる要因		
到達目標	肌を美しく健康に保つためのスキンケアの方法をクライアントに提案することができる		
評価基準	筆記試験60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン		
関連科目	生理学Ⅰ・ベーシックエステⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	佐藤由美　他3名	実務経験	○
実務内容	大手エステティックサロンにてエステティシャン・店長を経験。美容総合商社にてエステインストラクターとして勤務。その後、発毛サロンでカウンセラーとして勤務。エステティシャン歴３３年。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚学Ⅰオリエンテーション 皮膚の基礎知識　①	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 １．生体における皮膚の役割　２、皮膚の構造と働き（１）～（２）
2	皮膚の基礎知識　②	２、皮膚の構造と働き（２）（３）　肌理について
3	皮膚の基礎知識　③	２、皮膚の構造と働き（４）
4	皮膚の基礎知識　④	２、皮膚の構造と働き（５）皮脂腺・立毛筋
5	皮膚の基礎知識　⑤	２、皮膚の構造と働き（５）立毛筋（６）（７）
6	皮膚の基礎知識　まとめ 筆記テスト	成績評価①皮膚の基礎知識（断面図・名称）グループ　成績評価②筆記テスト

7	美容上大切な６つの働き　①	１、皮脂膜 ２、角質バリア
8	美容上大切な6つの働き　②	３、表皮ターンオーバー ４、メラノサイトの働き
9	美容上大切な6つの働き　③	５、毛細血管の働き　６、繊維芽細胞　７、皮膚の働きのバランス　テスト返却 成績評価③美容上大切な６つの働き　まとめ（ワーク）
10	皮膚の生理作用　①	皮膚の生理作用（１）～（６）保護・体温調節・分泌・吸収
11	皮膚の生理作用　②	皮膚の生理作用（７）～（９）ビタミンD合成・貯蔵・知覚／テスト対策
12	筆記テスト 肌の美しさを損ねる要因　①	成績評価④　筆記テスト 美容上大切な６つの働き　１、紫外線
13	肌の美しさを損ねる要因　②	２、寒気 ３、乾燥　４、加齢
14	肌の美しさを損ねる要因　③	５、女性のリズム　６、精神的ストレス　７.胃の不調 ８、生活習慣　　小テスト
15	総合授業	総合復習　まとめグループ 前期総復習（個人）

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	生理学Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	生理学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する ・骨格系・筋系・神経系		
到達目標	体を美しく健康に保つためのボディケアの方法をクライアントに提案することができる		
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度(グループワークor課題作成)、提出物など20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン		
関連科目	皮膚学Ⅰ・ベーシックエステⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	安喰弘子 他2名	実務経験	○
実務内容	エステサロン勤務（技術全般）店長職（店舗運営、スタッフ教育）メディカルエステ勤務 マネージャー職（店舗運営全般）講師歴は20年以上		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生理学Ⅰオリエンテーション 生命と適応進化の歴史 生命活動とホメオスタシス　1	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 1．生命とは　2．生命40億年／はるかな旅　3．生命の適応進化とエステティック 1．ホメオスタシスの定義と発見　2．ホメオスタシスの実際
2	生命活動とホメオスタシス　2	3．ホメオスタシスの具体例 ホメオスタシスを制御する仕組み
3	生命活動とホメオスタシス　3	ホメオスタシスを乱すストレス
4	身体の基本　1	ホメオスタシスを乱すストレス（小テスト） 1．身体の構成

5	身体の基本　2	1．身体の構成　2．身体の設計図　3．身体を構成する物質　4．血液　物質運搬
6	身体の基本　3	4．血液　物質運搬 筆記試験範囲まとめ　／　グループワークor課題作成(成績評価対象)
7	骨格系・筋系　1　・　筆記試験	成績評価①筆記試験　／　1．体区分 2．骨格（1）①骨の役割
8	骨格系・筋系　2	2．骨格（1）②骨の構造と代謝　③関節　④骨格の構成（頭蓋骨）
9	骨格系・筋系　3	2．骨格（1）④骨格の構成　（脊柱・胸骨・上肢骨・下肢骨・骨盤）
10	骨格系・筋系　4	3．筋系（2）①筋肉の役割　②筋肉の種類　③骨格筋 ④骨格筋の構成　⑤速筋と遅筋
11	骨格系・筋系　5	3．筋系（2）④骨格筋の構成　⑤速筋と遅筋 筆記試験範囲　まとめ　／　グループワークor課題作成(成績評価対象)
12	神経系　1　・　筆記試験	成績評価②　筆記試験 1．神経細胞　2．神経系の種類
13	神経系　2	3．中枢神経　（1）－（4）
14	神経系　3	4．末梢神経
15	総合授業	総まとめを行う　復習問題　小テスト

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	栄養学Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	栄養学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する ・５大栄養素・栄養所要量・食物摂取とその消化吸収
到達目標	栄養学の基礎知識を理解し、食事と健康・５大栄養素　・栄養所要量についてアドバイスができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	
備考	原則、この科目は授業オンデマンド型遠隔形式にて実施する。
担当教員	武島名奈子　　実務経験　○
実務内容	株式会社EBM他　サロン実務経験6年・プライベートサロン＆パーソナルトレーニング経営12年以上

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 栄養学の基礎知識　５大栄養素　1	オリエンテーション 1．栄養素の種類　2．5大栄養素、栄養素とは
2	栄養学の基礎知識　５大栄養素　2	1．栄養素の種類 2．5大栄養素（1）　蛋白質
3	栄養学の基礎知識　５大栄養素　3	2．5大栄養素（2）　脂質
4	栄養学の基礎知識　５大栄養素　4	2．5大栄養素（3）　糖質　（4）　炭水化物
5	栄養学の基礎知識　５大栄養素　5	３大栄養素のまとめ
6	栄養学の基礎知識　５大栄養素　6	2．5大栄養素（5）無機質

7	栄養学の基礎知識　５大栄養素　7	２．5大栄養素（５）ビタミン
8	５大栄養素　まとめ	１～７回のまとめ
9	筆記テスト	栄養素の種類・5大栄養素　成績評価①
10	栄養学の基礎知識　栄養価　1	３．栄養価　４．栄養所要量（１）基礎代謝
11	栄養学の基礎知識　消化吸収	５．食物摂取とその消化吸収（１）（２）
12	栄養学の基礎知識　まとめ	９～１１回のまとめ
13	筆記テスト	栄養価・栄養所要量・食物の消化吸収　成績評価②
14	総まとめ	食事バランスガイドの実践
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	香粧品学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	香粧品学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。 ・化粧品概論・ネイル、メイク、ヘアケア化粧品・フレグランス・化粧品の原料
到達目標	化粧品の基礎知識を理解し、安全に使用することができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	ベーシックエステⅠ・ベーシックメイクⅠ・ベーシックネイルⅠ
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。
担当教員	武島名奈子　　実務経験　○
実務内容	株式会社EBM他　サロン実務経験6年・プライベートサロン＆パーソナルトレーニング経営12年以上

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	香粧品学Ⅰ オリエンテーション	オリエンテーション
2	化粧品概論　1	1．化粧品・医薬部外品と薬機法
3	化粧品概論　2	2．化粧品の分類
4	化粧品概論　3	3．化粧品の品質と品質保証
5	化粧品概論　4	4．化粧品の取り扱い上の留意点
6	化粧品概論　5	まとめ

7	筆記試験	化粧品概論　成績評価①
8	メイクアップ化粧品　1	1．メイクアップ化粧品の目的と働き ２．ベースメイクアップ料　3．ポイントメイクアップ料
9	メイクアップ化粧品　2	着色料について
10	ネイル化粧品	１．ネイル化粧品の目的と働き　２．ネイルポリッシュ ３．ポリッシュリムーバー
11	ヘアケア化粧品	１．ヘアケア化粧品の目的と働き　２．洗髪料　３．育毛料 ４．ヘアスタイリング料　５．トリートメント長　６．パーマネントウェーブ料 ７．染毛料、ヘアブリーチ
12	フレグランス	１．フレグランスの目的と働き　２．女性用香水 香水以外のフレグランス商品
13	まとめ	メイクアップ化粧品・ネイル化粧品・ヘアケア化粧品・フレグランス総合まとめ
14	筆記試験	メイク・ネイル・ヘアケア化粧品・フレグランス　成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅲ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準と衛生管理・感染症について理解する。		
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる		
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン		
関連科目			
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。		
担当教員	服部仁実	実務経験	○
実務内容	美容商社にてサロン向け営業インストラクターを6年、トータルサロンにてエステティック部門と ネイル部門の統括マネージャーを経て、現在プライベートサロンを経営。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション エステティックの概念	オリエンテーション 1．エステティックとは何か　　2．内面美容としてのエステティック
2	エステティックの本質と領域　1	1．エステティックの語源と歴史
3	エステティックの本質と領域　2	2．エステティックの領域
4	ソワンエステティック　1	1．ソワンエステティックの語源　2．目的と期待される効果
5	ソワンエステティック　2	3．スキンタッチの重要性　4．五感美容

6	美と健康 ｴｽﾃﾃｨｼｬﾝとししての心構え	1．健康美は心身のバランスから　2．ウェルネス 3．アンチエイジング 1．エステティシャンの資質　2．ホスピタリーマインドの意義
7	日本のエステティック 世界のエステティック	1,日本のエステティック 2,世界のエステティック
8	筆記試験	エステティックの概念～エステティシャンの心構え　成績評価①
9	公衆衛生	1．公衆衛生とは　2．世界における公衆衛生の歴史 3．日本における公衆衛生の歴史
10	衛生管理　1	1．衛生管理全般　2．消毒方法の種類とその基本的な使用法
11	衛生管理　2	3．消毒の準備・用具　4．施術に関わるものの消毒方法
12	感染症　1	1．感染のメカニズム
13	感染症　2	2．エステティックに関連する感染症
14	筆記試験	前期総合　成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックエステⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックエステⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ クリエーヌ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	身体や皮膚の生理機能に基づいたフェイシャル・ボディトリートメントを学び、エステティックの流れ、 基本の手技を覚え一つ一つの手技の意味を理解する。
到達目標	ホスピタリティーの実践、基礎的なフェイシャル・ボディの技術を提供できるようになる。
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅰ・生理学Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	佐藤由美　他6名
実務経験	○
実務内容	大手エステティックサロンにてエステティシャン・店長を経験。美容総合商社にてエステインストラクターとして勤務。その後、発毛サロンでカウンセラーとして勤務。エステティシャン歴３３年。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ベーシックⅠオリエンテーション ボディエステティックとは	自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 １．ボディエステティックの目的と効果２．ボディエステティックの流れ３．ルールについて・ベッドセッティング
2	接客マナー	笑顔・あいさつ身だしなみ・言葉づかい・基本動作・ベッド誘導 ボディトリートメント/手の使用部位・流れ（下肢後面デモ・練習)・下肢後面相モデル練習
3	ボディマッサージ　下肢後面①	手技練習・拭取り練習
4	ボディマッサージ　下肢後面②	下肢後面通し練習
5	ボディマッサージ　下肢後面③	下肢後面通し練習

6	ボディ実技試験	成績評価①
7	フェイシャルエステティックとは 接客マナー	フェイシャルエステティックの目的と効果・フェイシャルエステティックの流れ 事前準備・基本動作・ベッド誘導
8	フェイシャル　クレンジング　①	クレンジング導入・デモ
9	フェイシャル　クレンジング　②	クレンジング練習
10	フェイシャルマッサージ　①	マッサージ導入・デモ
11	フェイシャルマッサージ　②	マッサージ導入・デモ
12	フェイシャルマッサージ　③	マッサージ総合
13	フェイシャルマッサージ　④	マッサージ総合
14	フェイシャル実技試験	成績評価②
15	総合技術	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックネイルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックネイルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	JNAテクニカルシステム　ベーシック ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ネイルについて歴史などの背景から始まり各部名称や病気・消毒法などを理解し、 基礎的なケアカラー技術を実践できる		
到達目標	ネイルの基礎知識及び技術を理解し実践でき、ＪＮＥＣ３級レベルを習得する		
評価基準	実技テスト30％、筆記テスト30％、小テスト20％、宿題及び授業態度他20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級		
関連科目	生理学・皮膚学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	伊達祐子　他12名	実務経験	○
実務内容	ネイルサロン勤務・ネイル＆アイラッシュ自宅サロン等を得て、認定講師としてネイリスト協会の検定試験の試験管や学校講師として活動		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教材配布・歴史・技術体系・面取り・ウッドスティック整え方	教材配布(名称及び説明)・今後の説明・歴史・技術体系　・ファイルの面取り・ウッドスティック整え方
2	ネイル概論（爪の構造と働き） ネイルの為の皮膚科学 テーブルセッティング ファイリングデモ・実技 （トレーニングハンドにてデモ・実技は自分の爪）	爪の構造・皮膚学（皮膚学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ） 検定に準じたテーブルセッティングを学ぶ トレーニングハンドを使用し、ファイリングの手順、５パターンのカットスタイルの違いを理解する ライトを使用する（ＡＬ方式）
3	消毒法 ファイリング実技（相モデル）・バッフィング ケア　デモンストレーション(プッシュアップ・プッシュバック)	消毒衛生を理解する ファイリング相モデル・バッフィングの方法を学び、実践する ケアのデモンストレーションでプッシュアップ・プッシュバックを学ぶ

4	ネイルのための生理学Ⅰ・Ⅱ ケア　デモンストレーション(プッシュアップ・プッシュバック・ニッパーの使い方）　ケア実技	生理学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ 正しい使用方法、手順を学ぶ　ケアだけのデモンストレーションをプッシュアップ～ニッパーまで学び、実践する
5	ケア実技（相モデル）	両手を通しての手順を覚える
6	化粧品学　カラーリング デモ　シートまたはチップ実技 カラーリング実技（相モデル）	香粧品学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ シートまたはチップを使用し、ボトルの持ち方、ポリッシュの量、塗り方を学ぶ（持ち塗り、置き塗り）
7	爪の病気とトラブル 爪の異常 ケア・カラーリング実技	爪のトラブルを学ぶ カウンセリング～ケア～カラーリングまでの手順を学ぶ
8	検定注意事項３級検定ＤＶＤ ケア・カラーリング実技	検定に向けて手順を完全に理解する
9	ポリッシュアートとペイントアート 講義･デモ・実技　シート練習 アート練習(チップ)	検定以外の基本のアートを学ぶ (フレンチ・シボレー・ファン・マーブル他）アクリル絵の具使用のペイントアートを学ぶ (ドット・ライン・ベタ塗りなどと共に花や葉などの基本形とバランス・色合い) テーマを決めアート練習　※チップにラウンド・アートの宿題
10	アート練習 カラー･アート(相モデル)	検定以外の基本のアートを学ぶ (フレンチ・シボレー・ファン・マーブル他）アクリル絵の具使用のペイントアートを学ぶ (ドット・ライン・ベタ塗りなどと共に花や葉などの基本形とバランス・色合い) テーマを決めアート練習　※チップにラウンド・アートの宿題
11	ケア･カラー･アート実技 筆記試験対策	検定の実技練習 ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題　筆記試験対策を行う
12	筆記試験（テスト） 検定実技	検定の実技練習 ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
13	実技試験（テスト）	検定の実技にてタイムトライアル ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
14	検定実技（タイムトライアル）	検定の実技にてタイムトライアル ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックメイクⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックメイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②			
授業のねらい	スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。		
到達目標	スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。		
評価基準	テスト50％、提出物30％　授業意欲20％		
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格	メイクアップ検定ベーシック(後期)		
関連科目	検定メイクⅠ、検定メイクⅡ、ベーシックメイクⅡ、ヘア＆メイク		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	吉田　祥子他6名	実務経験	○
実務内容	某外資系化粧品メーカーにて美容部員として8年間勤務　現在メイクアップインストラクター アイブロウサロンにて活動		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
2	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
3	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)
4	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト10分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗り)
5	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り
6	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)

7	セルフメイク	セルフメイク
8	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
9	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
10	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ＆ローライト)
11	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
12	フルメイク	フルメイクテスト35分×2、ベーシックテクニックの振り返り
13	ソフト	フルメイク(ソフト)
14	シャープ	フルメイク(シャープ)
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	Jump up		出版社	株式会社ジョイントプランニング	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	就職の心構えや企業のエントリー方法を知る。 面接や内定後までの流れを知る。
到達目標	就職活動の流れを理解する。 魅力的な履歴書の書き方を習得する。 面接方法が実践できる。
評価基準	授業態度40％・提出物(レポートや面接）40％・期末筆記テスト２０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	なし
関連科目	なし
備考	B5ノートの準備(企業研究ノート）リクルートガイドブック
担当教員	原田　知子　他４名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職活動について	２年間の就職活動の流れを把握する
2	美容業界を知る/企業ノート作成	業界とコース選択について
3		エステ・ネイル業界
4		メイク業界について
5		コース分けのスケジュール※第1回アンケート

6	企業研究　/　就活対策 志望企業調査	美容業界で求められる人物像・学校生活で大切な事・学生と社会人の違い
7		
8		企業研究ノートの作成方法・着眼点
9		各コース２年生講話 コース分け最終アンケート　告知
10	コース分け/後期の導入	●コース分け最終アンケート ・施設実習とインターンシップ説明
11	夏休みの過ごし方/課題	・夏休み課題(企業研究)の説明 ・企業見学などの際の着目点を伝える
12		・設定方法・注意事項・「夏休み宿題」
13	総合まとめ	●期末テスト 夏休み課題回収
14	社会人マナー	・企業研究の発表＆フィードバック
15		

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	モデル入門		
必修選択	選択	（学則表記）	モデル入門		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	モデルコース内で教えている技術を他業界内で活かしていけるように伝えていく （基本姿勢・歩き方・話し方・身だしなみ等）
到達目標	美を提供する業界内で、提供側も魅力ある立ち居振る舞いが出来るようにして行く（就職対策に意識）
評価基準	テスト40％、小テスト30％、授業態度30％、
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 4科目（ウォーキング、ポージング、ナレーション、ファッション）による総合授業
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	①印象ゲーム	人からどんな印象を抱かれる軸を持っているのか分析ゲーム
2	②カラーの影響	カラーがどのように人に影響を及ぼすか自分分析・客観的印象づくり
3	③骨格診断/ファッションスタイル	スーツ、私服に対して自分軸の一番魅力的＆TPOに合わせて変化させる服飾術
4	④小テスト実施	外見作りに対しての小テスト＆総まとめ
5	①ポージング	基本姿勢・基本ポージングAIS
6	②ポージング	基本姿勢・基本ポージングAIS・ペアでポーシングを作り発表

7	③ポージング	基本姿勢・基本ポージングAIS・4～5人グループでポージングを作り発表
8	④小テスト実施	基本ポージングAISのチェック
9	①ウォーキング基本	正しい姿勢の作り方について
10	②ウォーキング応用	美しい歩き方について
11	③小テスト実施	プリント
12	①ボイス	話すことに慣れる
13	②ボイス	自分で説明する・話す力を養う
14	③ボイス小テスト実施	滑舌・発表
15	総合学習	総まとめテスト＆総合学習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	カラーコーディネートⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	カラーコーディネートⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。		
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。		
評価基準	テスト30%、検定試験30%、提出物20%、授業態度20%		
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	アドバイス実践 （ファッション）	ファッションについて
2	アドバイス実践 （ヘアカラー・メイク）	ヘアカラー、メイクについて
3	アドバイス実践 （ネイル・ブライダル）	ネイル、ブライダルについて
4	総復習	検定試験に向けての総復習

5	総復習	復習と練習問題
6	検定対策授業	復習と練習問題
7	検定対策授業	復習と練習問題
8	検定対策授業	復習と練習問題
9	検定対策授業	復習と練習問題
10	検定対策授業	復習と練習問題
11	パーソナルカラーの判定①	パーソナルカラーの判定に必要な知識について
12	パーソナルカラーの判定②	パーソナルカラーの判定に必要な知識・実践について
13	４つのグループの具体化①	パーソナルカラー４つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
14	４つのグループの具体化②	パーソナルカラー４つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	必修	（学則表記）	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	7つの習慣Ｊテキスト、夢のスケッチブック		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する
到達目標	・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する ・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる
評価基準	小テスト／レポート：２０％　授業態度：４０％　　提出物：４０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	なし
関連科目	キャリア支援／就職対策等
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	諸星 理恵　他５名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
3	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
4	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを学ぶ
5	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ

6	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
7	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続あり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
8	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える
9	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
10	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
11	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
12	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
13	未来デザインプログラムの振り返り	７つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
14	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
15	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	就職ガイドＢＯＯＫ（ジャンプアップ）		出版社	株式会社ジョイントプランニング	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	就職の心構えや企業のエントリー方法を知る。 面接や内定後までの流れを知る。		
到達目標	就職活動の流れを理解する。 魅力的な履歴書の書き方を習得する。 面接方法が実践できる。		
評価基準	授業態度40％・提出物(レポートや面接）４０％・期末筆記テスト２０％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	原田　知子　他４名	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	業界研究	後期就職活動について　コースごとのスケジュール マイナビ・リクナビ・ビューティーツリーなどに登録完了 ・就職対策授業計画と評価について(施設実習の評価と単位の説明)
2	実習について	・施設実習までの流れ説明 ・施設実習先　企業紹介
3	実習について	・各コース身だしなみについて
4	実習について	・自己分析をする
5	実習について	・照明写真撮影説明/コースごと身だしなみ　※必要であれば各ジャンル担当教員が入る

6	実習について	・施設実習先決定後、電話掛け開始/訪問の仕方
7	就職活動ガイダンス	・就職活動本格ガイダンス　企業説明会参加導入 ・履歴書配布、履歴書の書き方
8	就職活動ガイダンス	・どのような選考があるのか/選考対策の仕方
9	コース別面接対策	・面接の重要性を説明。入退室までの流れ・作法など注意点
10	社会人マナー	実際によく聞かれる質問に対する受け答え。　　SPI対策（計算）①　SPI対策アプリ
11	社会人マナー	春休みの就職活動の流れ①　　SPI対策（言語　非言語）②
12	社会人マナー	・就職ｶﾞｲﾀﾞﾝｽに向けて　　SPI対策（時事問題）③
13	総まとめ	●後期末テスト ・実習期間、春休みの就職活動について②
14	総合授業	・実習前の説明（持参物・流れの確認など）・実習に向けての心構え・実習手帳の説明
15	総合授業	・２年生に向けて ・春休み中の就活について

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	サロンマナーⅡ		
必修選択	必修	（学則表記）	サロンマナーⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト３級 サービス接遇検定実問題集３級 就職ハンドブック		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける		
到達目標	サービス接遇検定３級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。		
評価基準	テスト40％、検定試験30％、課題・提出物20％、授業態度10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	サービス接遇検定3級		
関連科目	就職対策		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定対策授業	復習と練習問題
2	検定対策授業	復習と練習問題
3	検定対策授業	復習と練習問題
4	検定対策授業	復習と練習問題

5	検定対策授業	復習と練習問題
6	検定対策授業	復習・検定問題の解答・解説
7	履歴書作成①	履歴書とは、履歴書のマナー、履歴書の書き方について
8	履歴書作成②	履歴書作成
9	社交文書　①	縦書き・横書きレイアウトについて 文書の種類・文書の構成・頭語と結語・時候の挨拶・前文、末文の慣用句
10	社交文書　②	郵便の基礎知識～宛名の書き方、返信はがき、お礼状、送付状について
11	理想の美容従事者像	お客様から愛され・親しまれる美容従事者について
12	実技演習①「受付～誘導」	受付から誘導のロールプレイング演習
13	実技演習②「面接練習」 実技演習③「電話応対」 実技演習④「お茶出し」	面接試験の種類とチェックポイントについて 面接ロールプレイング
14	実技演習②「面接練習」 実技演習③「電話応対」 実技演習④「お茶出し」	電話のかけ方・受け方、伝言メモ、予約電話のシミュレーション
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	SNS・WEB・フォトスキル		
必修選択	選択	(学則表記)	SNS・WEB・フォトスキル		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容業界の現状やニーズを把握し、SNS・WEB・フォトスキルを活用したマーケティング・集客を理解し実践できるようになる。
到達目標	顧客の共感や集客につながるメッセージや写真をTwitter、Instagram、LINE@などのSNSやWEBを通じて発信できるようになる。各コンテンツの基礎知識から運用ルールを把握、理解し、実践できるようにする。
評価基準	テスト40%、提出物30%　授業態度等30%
認定条件	・出席が掃除関数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上のもの
関連資格	
関連科目	フォト＆ファッション
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	WEBマーケティングとSNS	SNSアカウント運用、広告、HP、LPの役割、ペルソナの設定などの基礎知識の講義
2	Instagramマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
3	Twitterマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
4	公式LINEアカウントマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
5	Youtubeマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表

6	Facebook/Tiktokなどの各種SNSについて	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
7	炎上防止と炎上があった際の対策	ケーススタディ
8	画像撮影、加工の基礎	講義+実践
9	写真の撮影について	基礎的な技法の講義と実践
10	動画の撮影について	基礎的な技法の講義と実践
11	ライティングの基礎	講義+実践(9回目、10回目で撮影した写真・動画を使ってSNSの更新を行う)
12	ランディングページ(LP)を作ってみよう	SNSで人気のあるLPの紹介と簡易LP構築ツールを使用したLPの作成
13	WEB・SNS広告の概要と基本思想	講義(リスティング、SNS、GDN、YDN)それぞれの効果的な活用方法と特徴
14	WEB・SNS広告、SNSアカウントの分析方法	WEB・SNS広告、SNSアカウントの分析方法を学ぶ
15	総合授業	総まとめ

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	皮膚学Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	皮膚学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	皮膚の働きのしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ ・肌の美しさを損ねる要因・様々な肌状態・肌と環境・肌分析 ・免疫、アレルギーについて・様々な皮膚疾患
到達目標	さまざまな肌状態をチェックすることができ、トラブルの原因を説明できる。
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	生理学Ⅱ・プロフェイシャルⅠ(エステ)・ベーシックエステⅡ(メイク)・フェイシャル＆ボディⅠ(トータルビューティー)
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚学Ⅱオリエンテーション	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説 前期の振り返り　小テスト成績評価対象
2	さまざまな肌状態　1	1．肌意識の年代変化 2．美しい肌
3	さまざまな肌状態　2	3．衰えた肌
4	さまざまな肌状態　3	4．色素沈着を起こした肌①
5	さまざまな肌状態　4	4．色素沈着を起こした肌②
6	さまざまな肌状態　5 筆記テスト	筆記テスト①　成績評価①　／　5．ニキビ①

7	さまざまな肌状態　6	5．ニキビ②
8	さまざまな肌状態　7	テスト返却　／　ニキビ③
9	さまざまな肌状態　／　肌と環境	6．肌荒れと敏感 1．肌と地域気候　2．肌と気象の季節区分
10	肌分析　・　筆記テスト	筆記テスト②　成績評価② 1．目的　2．肌分析を行う上で考慮すべきポイント　3．肌質チェック項目
11	肌分析	4．肌タイプ　／　肌分析（実践）　小テスト成績評価対象
12	免疫・アレルギーについて	テスト返却／免疫とは（免疫細胞の種類、免疫システム）／アレルギー
13	様々な皮膚疾患	様々な皮膚疾患　肌分析／肌トラブル（研究）
14	肌分析／肌トラブル（研究）	肌分析／肌トラブル（発表）　成績評価対象
15	総合授業	総合授業を行う　※メイクコース・ネイルコースは総復習を行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	生理学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	生理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ エステティシャンのための解剖生理学(エステコースのみ)		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する 感覚・内分泌系・呼吸器系・循環器系・消化器系・生殖器系・泌尿器系
到達目標	さまざまな体質・体型・状態をチェックすることができ、トラブルの原因を説明できる。
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度(グループワーク)、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ(エステ)・プロボディⅠ(エステ)・ベーシックエステⅡ(メイク)・ フェイシャル＆ボディⅠ(インナー)
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	生理学Ⅱオリエンテーション 末梢神経	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説 前期の振り返り　神経系　１．感覚～外界情報の収集　（１）－（２）
2	感覚	１．感覚～外界情報の収集　（４）
3	内分泌系　1	１．内分泌系の役目 ２．各内分泌腺とホルモンの種類（１）
4	内分泌系　2	２．各内分泌腺とホルモンの種類（２）－（７）

5	筆記テスト　／　呼吸器系	筆記テスト①　成績評価① １．呼吸のあらまし ２．外呼吸と内呼吸 ３．呼吸器の構造 ４．呼吸運動
6	循環器系　1	１．心臓の構造 ２．血液循環（１）－（４）
7	循環器系　2	３．心臓の興奮伝達系 ４．血管の種類と構造　　５．リンパ系（１）（２）①②
8	循環器系　3	５．リンパ系（２）③④　～（５）
9	循環器系　3	循環器系　まとめ　復習問題
10	循環器系　4	循環器系　まとめ　小テスト
11	消化器系　1	１．消化作用 ２．消化器系の構成（１）－（４）
12	消化器系　2	２．消化器系の構造（５）－（７）
13	テスト　／　泌尿器系	筆記テスト②　成績評価③ １．腎臓とは（１）
14	泌尿器系　／　生殖器系	１．腎臓とは（２）（３）　２．副腎とは １．月経のメカニズム　２．妊娠　３．胚葉分化
15	総合授業	総まとめを行う 感覚／内分泌系／呼吸器系／消化器系　まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	栄養学Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	栄養学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ エステティシャンのための栄養学		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。 ・栄養学から見た食品 ・健康と栄養・サプリメント・食品添加物
到達目標	栄養学の基礎知識を理解し、健康と栄養・サプリメント・食品添加物についてアドバイスができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	エステティックカウセリング(エステ)
備考	原則、この科目は授業オンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	栄養学Ⅱオリエンテーション	前期の振り返り
2	栄養学の基礎知識　食品　1	6．栄養学から見た食品（1）
3	栄養学の基礎知識　食品　2	6．栄養学から見た食品（2）
4	栄養学の基礎知識　食品　3	6．栄養学から見た食品（2）
5	栄養学の基礎知識　食品　4	6．栄養学から見た食品（2）

6	筆記テスト	まとめ/成績評価①
7	健康と栄養　1	1．栄養状態の判定　2．肥満
8	健康と栄養　2	3．中・老年期の栄養
9	健康と栄養　3	4．美容と栄養
10	健康と栄養　4	まとめ
11	筆記テスト	栄養学の基礎知識（10月―11月分）健康と栄養　成績評価②
12	サプリメント	サプリメント
13	食品添加物	小テスト
14	まとめホームケアアドバイス	フェイシャル及びボディシートの ホームケアアドバイス内容
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	香粧品学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	香粧品学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。 ・フェイシャル、ボディ化粧品・化粧品の原料・化粧品に用いられる薬剤とその働き
到達目標	化粧品の基礎知識を理解し、安全に使用することができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	エステティックカウセリング(エステ)・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ(エステ)・ベーシックⅡ(メイク)
備考	原則、この科目は授業オンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション 前期の振り返り
2	フェイシャル化粧品　1	1．フェイシャル化粧品の目的と働き 2．洗顔化粧品
3	フェイシャル化粧品　2	3．整肌化粧品
4	フェイシャル化粧品　3	4．賦活化粧品
5	ボディ化粧品　1	1．ボディ化粧品の目的と働き 2．洗浄料
6	ボディ化粧品　2	3．シェイプアップ料4．サンケア料

7	ボディ化粧品　3	5．制汗・防臭料　6．浴用料　7．脱毛料
8	筆記試験	フェイシャル・ボディ化粧品　成績評価①
9	化粧品の原料　1	1．化粧品の使用目的と剤型タイプの特徴 2．水性原料　3．保湿剤
10	化粧品の原料　2	4．油性原料
11	化粧品の原料　3	5．界面活性剤 6．高分子化合物　7．着色料　8．香料
12	化粧品に用いられる薬剤とその働き　1	1．紫外線カット剤　2．酸化防止剤 3．防腐防カビ剤
13	化粧品に用いられる薬剤とその働き　2	4．美白剤　5．肌荒れ防止剤など　6．ニキビ用薬剤　7．制汗防臭剤 化粧品の原料　薬剤とその働き
14	筆記試験	化粧品の原料　薬剤とその働き　成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックネイルⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	ベーシックネイルⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	JNAテクニカルシステム　ベーシック ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ネイル技術の基本を学び実践でき、さらに基礎に加えてＪＮＡ２級課題である爪の補修・補強を学ぶ		
到達目標	JNEC3級のネイル技術をマスターし、ＪＮＡ２級取得が出来る技術		
評価基準	実技テスト30％、筆記テスト30％、3級検定結果30％、宿題及び授業態度他10％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級		
関連科目	生理学・皮膚学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC3級実技対策①	検定実技(タイムトライアル)
2	JNEC3級実技対策②	検定実技(タイムトライアル)
3	JNEC3級実技対策③	検定実技(タイムトライアル)
4	ポリッシュアート①	アート(フレンチ・ラメグラ他）相モデルにて
5	ポリッシュアート②	アート（マーブル・ウォーターマーブル）相モデル
6	ポリッシュアート③	アート（トレンドアート）相モデル

7	トリートメント①	ハンドトリートメント講義、デモ、ハンドトリートメント実技
8	トリートメント②	ケア・ハンドトリートメント 相モデル
9	シルクラップ①	プレパレーションデモリペア（シルクラップ）チップラップデモ、実技
10	シルクラップ②	リペア（シルクラップ）チップラップ相モデル
11	チップラップ①	リペア（チップラップ）相モデル
12	チップラップ②	リペア（チップラップ）相モデル
13	実技テスト	実技テスト（アート・チップラップ）
14	筆記テスト ハンドトリートメント実技	筆記テスト　ハンドトリートメント実技
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックエステⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックエステⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ クリエーヌ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態に合った フェイシャル・ボディトリートメントを理解する。
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅰ・生理学Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ベーシックエステⅡ オリエンテーション	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説前期の振り返り
2	ディープクレンジング(粒子有・無)導入	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔（粒入り・無し）
3	ディープクレンジング(粒子有・無)練習	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔（粒入り・無し）
4	ディープクレンジング(酵素)導入	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔（酵素）
5	ディープクレンジング(酵素)練習	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔（酵素）

6	ディープクレンジング総合	ケースワーク ※モデルの肌状態で（粒子有・なし・酵素＆スチーマー）選択：口頭試問
7	ディープクレンジング総合	ケースワーク ※モデルの肌状態で（粒子有・なし・酵素＆スチーマー）選択：口頭試問
8	実技試験	成績評価① ディープクレンジング総合
9	実技試験	成績評価① ディープクレンジング総合
10	ボディマッサージ　導入	デモ・下肢前面、拭取り
11	ボディマッサージ　練習	下肢前面、拭取り
12	ボディマッサージ　総合	下肢前面通し
13	実技試験	成績評価② ボディマッサージ　下肢前面　拭き取り
14	実技試験	成績評価② ボディマッサージ　下肢前面　拭き取り
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ビューティーカウンセリング		
必修選択	選択	（学則表記）	ビューティーカウンセリング		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	化粧品ブランド資料・カルテ・カウンセリングシート等 筆記用具・ノート…ファイル		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	メイクの業界で求められる人材や接客においての言葉使いを学び、また化粧品のブランドについての知識を研究し実践力を身につける。
到達目標	コミュニケーション(対人)能力を身につける。 接客サービスの提供が出来るようになる。
評価基準	テスト50％、提出物30％　授業意欲20％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション メイク業界の仕事とは	授業の目的目標、評価基準、授業ルール メイクの職種について／どんな人材が必要とされているかを理解する
2	メイクの仕事に就く上での、接客マナー・注意点など	身だしなみ・接客用語・敬語・気遣いについて知る
3	スキンケア知識対策 化粧品ブランドのグループ分け	化粧品ブランド調べグループに分ける ブランドの特徴を知る
4	カウンセリングとは①	ビフォアカウンセリングとアフターカウンセリング カウンセリング時の注意事項を理解する
5	カウンセリングとは②	信頼されるための話し方・聞き方・関わり方や声のトーンを理解する
6	カウンセリングシート・実践	記入の仕方（お客様に差し上げるシートには何を記入するのか） お客様のお悩みを聞き出し、要望をこたえるスキンケアを選ぶロールプレイング

7	接客マナー①	来店～施術までの動きを知る
8	接客マナー②	前回の復習 施術後～お帰りまでの動きを知る
9	スキンケア知識対策	ブランド化粧品を研究、今後カウンセリングに必要な知識を理解する
10	ベースメイク知識対策	ブランド化粧品を研究、今後カウンセリングに必要な知識を理解する
11	メイク知識対策①	ブランド化粧品を研究、商品プレゼン(ハンドタッチアップ含)
12	メイク知識対策②	ブランド化粧品を研究、商品プレゼン(ハンドタッチアップ含) テスト／振り返り
13	化粧品検定級対策① 間違いな美容知識をチェック	クレンジング～化粧くずれの対処法(小項目)
14	化粧品検定級対策② 間違いな美容知識をチェック	自分に似合う色の見つけ方～手や爪の特徴を学ぼう
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	検定メイクⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	検定メイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	3	45
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト） メイクアップテキストアドヴァンス（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	メイクの基礎知識や技術を学びメイク検定合格をする。
到達目標	検定の内容に沿ったメイク技術を身につける。 スキンケア・メイクアップテクニックを実践できる。
評価基準	テスト30％、検定取得20%、提出物30％　授業意欲20％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	メイクアップ検定ベーシック
関連科目	ベーシックメイクⅠ、検定メイクⅡ、ベーシックメイクⅡ、ヘア＆メイク
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)

7	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク34分行う テスト扱いとする
8	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う) 座学(問題集にて検定対策を行う)
9	アドヴァンス検定対策①	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの 練習を行う
10	アドヴァンス検定対策②	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの 練習を行う
11	アドヴァンス検定対策③	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの 練習を行う
12	アドヴァンス検定対策④	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの 練習を行う
13	アドヴァンス検定対策⑤	検定テーマに合わせて、テストを行う
14	アドヴァンス検定対策⑥	検定テーマに合わせて、テストを行う 振り返りを行う
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ヘアアレンジⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ヘアアレンジⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	ヘアアレンジ道具一式 ヘアアレンジテキスト		出版社	ユアサポート	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。
到達目標	ブラッシング・ピニングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。 就職活動に必要なセルフテクニックを知る。
評価基準	テスト50％、提出物30％　授業意欲20％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	パーソナルヘア＆メイクⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 毛髪頭部名称、ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 毛髪知識、頭部名称
2	ブロッキング ポニーテール	ブロッキング、ポニーテール導入
3	ポニーテール 三つ編み	ポニーテール反復練習 三つ編み導入
4	ポニーテール 編み込み・フィッシュボーン	ポニーテール反復練習 編み込み・フィッシュボーン導入
5	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る
6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り

7	ホットカーラー	ホットカーラー導入
8	ホットカーラー ピニング	ホットカーラー反復練習 ピニング導入
9	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング反復練習 逆毛導入
10	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング、逆毛反復練習
11	アイロン	アイロン導入
12	アイロン	アイロン反復練習
13	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
14	テスト	実技テスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	パーソナルメイク		
必修選択	選択	（学則表記）	パーソナルメイク		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	45
使用教材	メイク道具一式、メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	基礎技術をテーマに合わせる(応用)メイクアップが出来るようになる。
到達目標	人に似合うメイクが出来るようになる。 お客様やモデルが希望するメイクデザインをその人の顔に合わせて出来るようになる。
評価基準	テスト50％、提出物30％　授業意欲20％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	ベーシックメイクⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション パーソナルメイクとは	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 基本プロポーションレクチャー
2	プロポーション	素顔を生かすセルフメイク/プロポーション測定
3	理想のプロポーション	素顔を生かすセルフメイクの実践
4	錯覚Ⅰ	印象チェンジセルフメイク/錯覚メイクの実践
5	錯覚Ⅱ・色の錯覚	錯覚を応用したテクニック/色彩的な錯覚の実践
6	色とトーン	色の持つイメージ・トーンの持つイメージを理解し、各色が持つイメージワードを考え、 組み合わせることで、メイクの幅が広がることを理解する。

7	カラーマップ 質感	カラーマップの見方を理解 質感の特徴理解
8	カラーマップに沿ったメイク	前回と違うパターンのメイクをする。
9	ベース作り①	座学　顔写真＋自分に合ったベース作り 錯覚メイクのプロポーション理解
10	ベース作り②	前回の資料を元にベースメイク
11	パーソナルメイクアップ①	相モデルで骨格・パーツ診断をしパーソナルメイク実践
12	パーソナルメイクアップ②	相モデルで骨格・パーツ診断をしパーソナルメイク実践
13	イメージチェンジ	相モデルでイメージチェンジメイクを実践
14	フルメイク	フルメイクテスト／振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックメイクⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	ベーシックメイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	前期に学んだ基礎を生かしテーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す
到達目標	メイクの基礎技術から、フルメイクまで出来るようになる
評価基準	テスト30％、検定取得20%、提出物30％　授業意欲20％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	メイクアップ検定ベーシック
関連科目	ベーシックメイクⅠ、検定メイクⅠ、検定メイクⅡ、ヘア＆メイク、パーソナルメイク
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)

7	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う)
8	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク35分行う テスト扱いとする
9	プロポーション	プロポーションについて導入、実践
10	錯覚	錯覚について導入、実践
11	ネイル　→　色、質感 エステ　→　フルメイク	ネイル　→　色、質感について導入、実践 エステ　→　メイク対策
12	ネイル　→　色、質感 エステ　→　フルメイク	ネイル　→　色、質感について導入、実践 エステ　→　メイク対策
13	ネイル　→　色、質感 エステ　→　フルメイク	ネイル　→　色、質感についてテスト エステ　→　メイク対策についてのテスト
14	ネイル　→　色、質感 エステ　→　フルメイク	ネイル　→　色、質感についてテスト エステ　→　メイク対策についてのテスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	エステティックカウンセリングⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	エステティックカウンセリングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ・エステティシャンのための エステティックカウンセリング(エステのみ)		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	一人ひとりの心や体の悩みの相談に応じて人間的な理解を深めて、悩みを解決へと導く心理学に基づく療法を理解する。
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	エステティックカウセリングⅠ・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	エステティックカウンセリングⅠ オリエンテーション	オリエンテーション
2	カウンセラーの役割	1．カウンセリングとコンサルティング　2．「ソワンエステティック」の担い手として 3．悩みを解決へと導く心理学療法　4．ストレスにより「ホメオスタシス」も低下 5．エステティックサロンに求められているもの
3	心のメカニズムと顧客心理	1．「意識」「情動」「欲求」　2．「顧客心理」四つのポイント 3．聞き上手になろう　4．話し上手になろう
4	カウンセリングの流れ　1	1．受付での対応　2．ビフォーカウンセリング

5	カウンセリングの流れ　2	3．施術中のカウンセリング　4．アフラーカウンセリング 1～4　小テスト
6	筆記試験	カウンセラーの役割・心のメカニズムと顧客心理　成績評価①
7	カウンセリングの実際　1	1、サロン内の環境　2、コンサルテーションシート フェイシャル・ボディ　メニュー・技術選択の考え方
8	カウンセリングの実際　2	3、肌性及びトラブルに対する判断　4、体型と体質の判断 5、ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ機器
9	カウンセリングの実際　3	フェイシャルケース１ （さまざまな肌状態　皮膚学Ⅱがすべて終了している）
10	カウンセリングの実際　4	フェイシャルケース２ （さまざまな肌状態　皮膚学Ⅱがすべて終了している）
11	カウンセリングの実際　5	ボディケース１ （循環器系　生理学Ⅱが終了している）
12	カウンセリングの実際　6	ボディケース２ （肥満・中高年の栄養　栄養学Ⅱで終了している）
13	カウンセリングの実際　7	肌分析・体分析　ケース①
14	カウンセリングの実際　8	肌分析・体分析　ケース②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ・エステティシャンのための関連法規 エステティック概論・サロンでの衛生消毒		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。 ・経済行為、人の身体に直接関連する法律
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	エステティックカウセリングⅠ・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ
備考	原則、この科目は授業オンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 前期復習※エステ実習の為	オリエンテーション　前期の振り返り ３．消毒の準備・用具　４．施術に関わるものの消毒方法
2	衛生管理・衛生管理の実践	１．手指の衛生措置 ２．手指の洗浄と消毒　３．消毒剤の効果と特徴
3	関連法規関連法規 「法」の基礎知識　1	１．社会生活と「法」　２．法とは社会規範　３．法の強制力 ４．法の原則
4	関連法規関連法規 「法」の基礎知識　2	５．日本の資格制度 ６．エステティックと法律
5	消費者保護　1	１．消費者政策 ２．エステティックに関連する消費者トラブル
6	消費者保護　2	３．トラブル対応の心得

7	人の身体に直接関連する法律　1	1．四つの衛生法規　2．エステティックに関わりの深い衛生法規
8	人の身体に直接関連する法律　2	テスト範囲まとめ
9	筆記試験	成績評価①　　消費者保護・人の身体に直接関連する法律・法の基礎知識の範囲
10	エステティック業界の 統一自主基準　1	1．自主基準策定の目的　2．エステティックの定義
11	エステティック業界の 統一自主基準　2	3．日本エステティック振興協議会の倫理網領 4．サロン遵守事項
12	経済行為に関する法律　1	1．商法　2．集客　3．個人情報の保護に関する法律
13	経済行為に関する法律　2	6．消費者契約法　7．特定商取り引きに関する法律 8．割賦販売法
14	筆記試験	成績評価②　エステティック業界の統一自主基準～経済行為に関する法律
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プロフェイシャルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロフェイシャルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ・エステティシャンのためのフェイシャル技術理論・クリエーヌ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁忌事項を学び肌の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身につける
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	AEA上級認定エステティシャン AJESTHE認定上級エステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	プロフェイシャルⅠ オリエンテーション	前期復習・オリエンテーション
2	ポイントメイククレンジング 形状別クレンジング剤	形状別クレンジング剤の使用方法について ポイントメイククレンジング
3	ディープクレンジング(粒子有・無し)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項　ディープ洗顔（粒入り・無し） 練習：フェイシャルマッサージ―マスク－ふき取り―誘導
4	ディープクレンジング(酵素)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項　スチーマー・ディープ洗顔（酵素） 練習：フェイシャルマッサージ―マスク－ふき取り―誘導
5	ディープクレンジング　練習	ケースワーク

6	実技試験	ケースワーク成績評価①
7	ディープクレンジング(ブラシ・キッシン	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 キッシング
8	ディープクレンジング(ブラシ・キッシン	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 フリマトール
9	ディープクレンジング(電気)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 エレクトロクレンジング・ディスインクラステーション
10	ディープクレンジング　総合	ケースワーク
11	実技試験	成績評価②
12	スキンチェック	クレンジング後のスキンチェック方法導入
13	ケーストレーニング	肌分析　ケースワーク
14	ケーストレーニング	肌分析　ケースワーク
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プロボディⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロボディⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	クリエーヌ化粧品マッサージオイル・タオル類・消耗品類・採寸用メジャー、新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ エステティシャンのためのボディ技術理論		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	全身のマッサージを学び、採寸から分析しクライアントに合わせたマッサージを提供する。注意事項・禁忌事項を学び身体の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身につける
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合った手技を組み合わせたマッサージを行うことができる
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	AEA上級認定エステティシャン AJESTHE認定上級エステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返り/前操作デモンストレーション
2	腰背部マッサージ　導入	デモンストレーション・手技・拭き取り
3	腰背部マッサージ　練習	通し練習　下肢後面～腰背部
4	下肢前面マッサージ　導入	デモンストレーション・手技・拭き取り

5	下肢前面マッサージ　練習	通し練習　腰背部～下肢前面
6	実技試験	成績評価①　腰背部～下肢前面
7	上肢マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
8	腹部マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
9	デコルテ・頭部マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
10	マッサージ総合	上肢～腹部～デコルテ・頭部
11	マッサージ総合	下肢後面・腰背部・下肢前面・上肢・腹部・デコルテ・頭部マッサージの不足箇所の練習
12	実技試験	成績評価②　総合
13	ボディチェック（採寸含む）	確認とボディチェック（視診・触診・問診）の　デモンストレーション・実践 マッサージ練習
14	ボディチェックを含めた総合授業	確認とボディチェック（視診・触診・問診）の実践 コンサルテーション・マッサージ
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	アロマテラピーⅠーG		
必修選択	選択	（学則表記）	アロマテラピーⅠーG		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	アロマテラピー検定公式テキスト1級 エッセンシャルオイル入門検定1級A/Bセット		出版社	公益社団法人　日本アロマ環境協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	アロマテラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマテラピーに関わる法律問題・資格制度を学ぶ
到達目標	アロマテラピーを家族や周囲の人々ともに楽しみ、健康維持の為に用いる知識を説明することができる
評価基準	筆記試験60％・精油小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	アロマテラピー検定1・2級
関連科目	プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ・エステティックカウンセリングⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アロマテラピーオリエンテーション 第1章　イントロダクション	・アロマテラピーとは・精油とは ・仲間同士の植物の特徴
2	第2章　エッセンシャルオイル	・精油の持つ性質、作用、抽出方法 ・精油のプロフィール（イランイラン　クラリセージ　グレープフルーツ）
3	第2章　エッセンシャルオイル 第３章　セーフティ 第4章　プラクティス　1	・精油の選び方、自然環境との関係、　・安全に使うための心がけ ・精油の作用・精油のプロフィール（サンダルウッド）
4	第2章　エッセンシャルオイル 第３章　セーフティ 第4章　プラクティス　1	・注意すべき対象者、保管方法　基材について ・精油のプロフィール（ジュニパーベリー・スイートオレンジ）

5	第5章　メカニズム 筆記試験	・精油が心身に伝わる仕組み　成績評価①
6	第6章 ビューティー＆ヘルスケア	・睡眠、ストレス、女性ホルモン、スキンケア ・精油のプロフィール（スイートマジョラム・ゼラニウム・ティートリー）
7	第7章　ヒストリー　　1	・アロマテラピーの歴史（エジプト、ギリシャ、ローマ、インド、中国） ・精油のプロフィール（ネロリ）
8	第7章　ヒストリー　　2	・アロマテラピーの歴史（アラビア・イスラム社会、中性ヨーロッパ、日本） ・精油のプロフィール（フランキンセンス・ペパーミント）
9	第7章　ヒストリー　　3	・アロマテラピーの歴史（近世～近代ヨーロッパ） ・精油のプロフィール（ベルガモット）
10	第7章 ヒストリー　　4	・アロマテラピーの歴史（現代　アロマテラピーの誕生） ・精油のプロフィール（ユーカリ・ラベンダー）
11	第8章　関連法規　　1	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（レモン・レモングラス・ローズ）
12	第8章　関連法規　　2	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（ローズマリー・ローマンカモミール）
13	第4章　プラクティス　2	・アロマテラピーの利用法（紹介のみ）
14	コラムまとめ 筆記試験	・各章にあるコラムの部分でアロマテラピーの活用や知識の幅を広げる 成績評価②（第1章から題８章まで）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	アロマテラピーⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	アロマテラピーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	アロマテラピー検定公式テキスト1級 エッセンシャルオイル入門検定1級Aセット		出版社	公益社団法人　日本アロマ環境協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	アロマテラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマテラピーに関わる法律問題・資格制度を学ぶ		
到達目標	アロマテラピーを家族や周囲の人々ともに楽しみ、健康維持の為に用いる知識を説明することができる		
評価基準	筆記試験60％・精油小テスト20％・授業態度、提出物など20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	アロマテラピー検定1・2級		
関連科目	プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ・エステティックカウンセリングⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	アロマテラピーオリエンテーション 第1章　イントロダクション	・アロマテラピーとは・精油とは ・仲間同士の植物の特徴
2	第2章　エッセンシャルオイル	・精油の持つ性質、作用、抽出方法 ・精油のプロフィール（イランイラン　クラリセージ　グレープフルーツ）
3	第2章　エッセンシャルオイル 第３章　セーフティ 第4章　プラクティス　1	・精油の選び方、自然環境との関係、　・安全に使うための心がけ ・精油の作用・精油のプロフィール（サイプレス・サンダルウッド・ジャーマンカモミール）
4	第2章　エッセンシャルオイル 第３章　セーフティ 第4章　プラクティス　1	・注意すべき対象者、保管方法　基材について ・精油のプロフィール（ジャスミン・ジュニパーベリー・スイートオレンジ）

5	第5章　メカニズム 筆記試験	・精油が心身に伝わる仕組み　成績評価①
6	第6章 ビューティー＆ヘルスケア	・睡眠、ストレス、女性ホルモン、スキンケア ・精油のプロフィール（スイートマジョラム・ゼラニウム・ティートリー）
7	第7章　ヒストリー　　1	・アロマテラピーの歴史（エジプト、ギリシャ、ローマ、インド、中国） ・精油のプロフィール（ネロリ・パチュリ・ブラックペッパー）
8	第7章　ヒストリー　　2	・アロマテラピーの歴史（アラビア・イスラム社会、中性ヨーロッパ、日本） ・精油のプロフィール（フランキンセンス・ベチバー・ペパーミント）））
9	第7章　ヒストリー　　3	・アロマテラピーの歴史（近世～近代ヨーロッパ） ・精油のプロフィール（ベルガモット・ベンゾイン・ミルラ）
10	第7章 ヒストリー　　4	・アロマテラピーの歴史（現代　アロマテラピーの誕生） ・精油のプロフィール（メリッサ・ユーカリ・ラベンダー）
11	第8章　関連法規　　1	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（レモン・レモングラス・ローズ）
12	第8章　関連法規　　2	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（ローズオットー・ローズマリー・ローマンカモミール）
13	第4章　プラクティス　2	・アロマテラピーの利用法（紹介のみ）
14	コラムまとめ 筆記試験	・各章にあるコラムの部分でアロマテラピーの活用や知識の幅を広げる 成績評価②（第1章から題８章まで）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スカルプチュア		
必修選択	選択	（学則表記）	スカルプチュア		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ＪＮＥＣ１級課題となるスカルプチュア・イクステンションの基礎を学び、知識とともに技術向上を目指し、 アクリリックの特性を理解して施術が出来る		
到達目標	ＪＮＥＣ１級取得を目指すとともに、サロンワークで通用する技術をマスターする		
評価基準	授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト60％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級・1級		
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ・検定対策Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入　リペア	授業の目的・グルーオン・シルクラップ・オフ　デモ・実技
2	チップラップ①	チップオン・チップラップデモ・実技ハンド
3	チップラップ②	チップラップ（ハンド・相モデル）
4	チップラップ③	チップラップ（相モデル）
5	教材説明　スカルプ理論　ミクスチュアデモ	教材の説明、スカルプ理論・ミクスチュアの取り方
6	オーバーレイ①	デモ・オーバーレイ実技（ハンド）

7	オーバーレイ②	オーバーレイ実技（ハンド）
8	オーバーレイ③	オーバーレイ実技（相モデル）
9	スカルプチュア①	スカルプチュアデモ・実技（ハンド）
10	スカルプチュア②	スカルプチュア実技（ハンド）
11	スカルプチュア③	スカルプチュア実技（相モデル）
12	実技テスト	実技テスト
13	筆記テスト スカルプチュア④	筆記テスト　スカルプチュア実技（相モデル）
14	スカルプチュア⑤	スカルプチュア実技（相モデル）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ネイルケア＆ネイルアートⅠ―F		
必修選択	選択	（学則表記）	ネイルケア＆ネイルアートⅠ―F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ＪＮＥＣ2級検定へ向けて、ニッパーのハンドリングやファイリング技術の 強化と共に、様々なネイルアート（フラット）を描くことが出来る
到達目標	2級レベルのネイルケア技術（お金を頂くことが出来る技術力）と与えられた課題のアートが描ける
評価基準	作品提出30％・授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	・JNECネイリスト検定3級・2級・1級
関連科目	検定対策Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ケア・カラー復習①	基礎技術の確認と3級検定に向けての総仕上げ（２級対応・プッシャーニッパー強化）
2	ケア・カラー復習②	基礎技術の確認と3級検定に向けての総仕上げ（２級対応・プッシャーニッパー強化）
3	カラーデモ・実技	パールホワイト・マットピンク・ナチュラルスキンカラーの塗り方デモ・実技
4	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	２級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ チップにて過去の２級アートのテーマにて作品制作を行う
5	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	２級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ チップにて過去の２級アートのテーマにて作品制作を行う
6	ケア実技①	実技（ケア・カラー・アート）

7	ケア実技②	実技（ケア・カラー・アート）
8	ケア実技③	実技（ケア・カラー・アート）
9	ケア実技④	実技（ケア・カラー・アート）
10	ケア実技⑤	実技（ケア・カラー・アート）
11	JNEC２級検定実技①	ポリッシュオフ～カラーリング・アート　（タイムトライアル）
12	JNEC２級検定実技②	ポリッシュオフ～カラーリング・アート　（タイムトライアル）
13	実技テスト	実技テスト
14	実技テスト・筆記テスト	実技テスト・筆記テスト
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	検定対策Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	検定対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	3	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ＪＮＥＣ３級検定を取得し、更なる上の級やＪＮＡジェル検定初級の取得を目指し、 ネイリストとしての基礎の完全にマスターし、実践できる		
到達目標	ＪＮＥＣ２級・ＪＮＡジェル初級の取得及びサロンワークで通用する基礎技術の習得		
評価基準	3級検定結果30％・授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級・1級		
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ・ジェルネイルⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC３級検定実技①	JNEC３級検定に向けて最終練習
2	JNEC３級検定実技②	JNEC３級検定に向けて最終練習
3	検定注意事項・２級検定デモ	JNEC２級検定に向けて筆記対策と共に検定要項に沿い注意事項を確認 基礎的な技術を復習し完全にマスターしていく
4	JNEC２級対応ケア実技	２級対応ケア練習　ラウンド/プッシャー/ニッパー強化
5	チップラップ①	プレパレーション、チップラップデモ・実技
6	チップラップ②	チップラップ実技

7	チップラップ③	チップラップ相モデル
8	JNEC2級検定後半実技①	2級検定後半実技　チップラップ・カラー・アート
9	JNEC2級検定後半実技①	2級検定後半実技　チップラップ・カラー・アート
10	ジェル初級検定実技または ２級検定実技	タイム取りをしてジェル検定実技または2級実技試験の実技の練習を行う
11	ジェル初級検定実技または ２級検定実技	タイム取りをしてジェル検定実技または2級実技試験の実技の練習を行う
12	２級検定検定注意事項 筆記テスト	検定要項に沿い注意事項を確認
13	実技テスト	実技テスト
14	実技テスト	実技テスト
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ジェルネイルⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ジェルネイルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ジェルの基礎を学び知識とともに技術向上を目指し、 特性を理解して説明して施術が出来る		
到達目標	ネイルの基礎的な知識・技術を理解し、ジェル検初級取得を目指す		
評価基準	初級検定結果30％・授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級・1級		
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ・検定対策Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・教材説明・セッティング・初級実技試験	教材説明、セッティングについて、ジェル初級の内容を理解する
2	ジェル講義　ジェル実技①	ライトで硬化するジェルシステムをジェルネイルテキストで学ぶクリア・カラー　デモ・実技 ハンドチップの装着方法と使い方
3	ジェル実技②	クリア・カラー実技、オフの仕方デモ・実技
4	ジェル実技③	ジェルカラー相モデル
5	ジェルアート①　講義・デモ	ピーコック・フラワーなどのジェルアートの基礎を学ぶ
6	ジェルアート②	ピーコック・フラワーなどのジェルアートの基礎を学ぶ

7	ジェル検定初級検定説明・デモ	ジェル検定初級内容を学ぶ
8	ジェル検定初級検定実技①	ジェル検定初級内容を学び・技術を習得する
9	ジェル検定初級検定実技②	ジェル検定初級内容を学び・技術を習得する
10	筆記テスト ジェル検定初級検定実技③	ジェル検定初級内容を学び・技術を習得する　筆記テスト
11	実技テスト	実技テスト
12	ジェル検定中級①	中級検定について内容を理解する　フレンチ・グラデーション　デモ・実技
13	ジェル検定中級②	ハンドにグラデーション実技
14	ジェル検定中級③	ハンドにフレンチ実技
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	コンテストⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	授業内で技術を磨き競わせ、自身で諦めない気持ちやモチベーションを向上させ維持することを実践できる		
到達目標	コンテスト入賞		
評価基準	授業態度20％・実技テスト60％・アート作品20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNAジェルネイル検定初級・JNECネイリスト検定3級		
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ・検定対策Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	導入	コンテストについての説明と意識付けモデル選びのポイント 今後のコンテストの予定・ハンドの仕込みについて
2	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
3	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
4	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
5	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
6	ケア・カラー　実技テスト	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する　実技テスト

7	アート	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
8	アート	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
9	アート	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
10	アート　作品提出	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する　作品提出
11	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
12	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
13	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
14	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術とコンテスト対応の技術での相違点を理解する
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	フェイシャル＆ボディⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	フェイシャル＆ボディⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	45
使用教材	クリエーヌ化粧品セット・消耗品類 教科書　新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態に合ったトリートメントを理解する。		
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる		
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン		
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	フェイシャル＆ボディⅠ オリエンテーション	前期復習　オリエンテーション
2	ポイントメイククレンジング 形状別クレンジング剤	形状別クレンジング剤の使用方法について（ジェル・クリーム・オイル）
3	フェイシャル ディープクレンジング	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔（粒入り・無し）
4	フェイシャル ディープクレンジング	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔（酵素）
5	通し練習	通し練習　　肌に合わせた選択をする クレンジング－ディープクレンジング－マッサージ－拭き取り－整肌

6	通し練習	通し練習　　肌に合わせた選択をする クレンジング－ディープクレンジング－マッサージ－拭き取り－整肌
7	フェイシャル実技試験	成績評価①
8	下肢（後）マッサージ復習	前期復習　ご案内-下肢マッサージ-ふき取り―誘導
9	腰背部マッサージ　導入	腰背部マッサージデモンストレーション
10	腰背部マッサージ　練習	下肢後面・腰背部　マッサージ練習
11	腹部マッサージ　導入	腹部マッサージデモンストレーション
12	腹部マッサージ　練習	腰背部・腹部　マッサージ練習
13	マッサージ総合	下肢後面～腹部　通し練習
14	ボディ実技試験	成績評価②
15	総合授業	総合復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ネイルアートⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ネイルアートⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ＪＮＥＣ３級のアートに加えて、更に上級検定やサロンで通用するネイルアートの技法を 学び習得し、アートでの色使いや筆の使い方を習得する		
到達目標	与えられた課題でポリッシュやペイントアートが出来る		
評価基準	アート作品30％・授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級		
関連科目	生理学・皮膚学・ネイル演習		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC３級検定実技①	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
2	JNEC３級検定実技②	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
3	JNEC３級検定実技③	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
4	JNEC３級検定実技④	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
5	ポリッシュカラーリング①	カラー（マットピンク・ホワイトなど）相モデル
6	ポリッシュカラーリング②	カラー（パールカラー・ナチュラルスキンカラーなど）相モデル

7	ポリッシュカラーリング③	アート（フレンチ･マーブル）相モデル
8	ポリッシュカラーリング④	アート（グラデーション・ウォーターマーブル他）相モデル
9	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	２級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ。 シートにて練習後チップにて作成過去の２級アートのテーマにて作品制作を行う。
10	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	２級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ。 シートにて練習後チップにて作成過去の２級アートのテーマにて作品制作を行う。
11	実技テスト練習	ケア・カラー・アート練習
12	実技テスト	授業の総復習としてケア・カラー・アートの実技テストを行う
13	実技テスト	授業の総復習としてケア・カラー・アートの実技テストを行う
14	筆記テスト	筆記テスト
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ネイル演習		
必修選択	選択	(学則表記)	ネイル演習		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ＪＮＥＣ３級の取得をして、更に上級のＪＥＣ２級検定へ向けて付け爪などの技術を習得し、 より深くネイルケアの大切さを理解する		
到達目標	ＪＮＥＣ２級レベルのケアやアートが出来る		
評価基準	3級検定結果30％・宿題/授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級		
関連科目	生理学・皮膚学・ネイルアートⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	関根 魅幸他11名	実務経験	○
実務内容	ネイルサロン4年勤務後、フリーネイリストとしてスクールと出張ネイルを兼務。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC３級検定実技①	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
2	JNEC３級検定実技②	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
3	JNEC３級検定実技③	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
4	JNEC３級検定実技④	検定に向けてタイムトライアル総仕上げ（筆記・実技とも）
5	シルクラップ①	プレパレーションデモ　リペア(シルクラップ)デモ・実技(自爪)
6	シルクラップ②	リペア（シルクラップ）相モデル

7	チップラップ①	チップラップデモ・実技(自爪)
8	チップラップ②	リペア(チップラップ)相モデル
9	チップラップ③	リペア(チップラップ)相モデル
10	トリートメント①	ハンドトリートメント講義・デモ、ハンドトリートメント実技
11	トリートメント②	ケア・トリートメント・カラー
12	実技テスト①	実技テスト(ケア・カラー・チップラップ)
13	実技テスト①	実技テスト(ケア・カラー・チップラップ)
14	筆記テスト	筆記テスト
15	総合授業	これまでの総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	パーソナルヘア＆メイクⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	パーソナルヘア＆メイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	メイク道具一式 ヘアアレンジテキスト		出版社	ユアサポート	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。		
到達目標	ブラッシング・ピニングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。 就職活動に必要なセルフテクニックを知る。		
評価基準	テスト50％、提出物30％　授業意欲20％		
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格			
関連科目	ヘアアレンジⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 毛髪頭部名称、ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 毛髪知識、頭部名称
2	ブロッキング ポニーテール	ブロッキング、ポニーテール導入
3	ポニーテール 三つ編み	ポニーテール反復練習 三つ編み導入
4	ポニーテール 編み込み・フィッシュボーン	ポニーテール反復練習 編み込み・フィッシュボーン導入
5	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る
6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り

7	ホットカーラー	ホットカーラー導入
8	ホットカーラー ピニング	ホットカーラー反復練習 ピニング導入
9	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング反復練習 逆毛導入
10	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング、逆毛反復練習
11	アイロン	アイロン導入
12	アイロン	アイロン反復練習
13	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
14	テスト	実技テスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	検定メイクⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	検定メイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	前期に学んだ基礎を生かしテーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す
到達目標	メイクの基礎技術から、フルメイクまで出来るようになる
評価基準	テスト30％、検定取得20%、提出物30％　授業意欲20％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	メイクアップ検定ベーシック
関連科目	検定メイクⅠ、ベーシックメイクⅠ、ベーシックメイクⅡ、ヘア＆メイク
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)

7	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う) 座学(問題集にて検定対策を行う)
8	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク35分行う テスト扱いとする
9	プロポーション	プロポーションについて導入、実践
10	錯覚	錯覚について導入、実践
11	色、質感	色、質感について導入、実践
12	色、質感	色、質感について導入、実践
13	フルメイク	フルメイクまとめテスト
14	フルメイク	フルメイクまとめテスト／振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スマホフォト技術		
必修選択	選択	（学則表記）	スマホフォト技術		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	スマートフォンを使って作品撮りや自撮りのテクニックを身に付ける
到達目標	実際にインスタグラムのアカウントを作成し、投稿するための撮影技術やレイアウト、コラージュの仕方を学び投稿する。効果的な投稿ができるようになり、フォロワーを増やすことができる力を身に付ける。
評価基準	テスト・小テスト：６０％　授業態度：２０％　レポート・課題など：２０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	WEB・SNS・フォトスキル、スマホ・フォト技術
備考	
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 目的の設定	インスタグラムやSNSで集客するために
2	ペルソナの設定	見てもらいたいターゲットを決める
3	プロフィール作成	ペルソナ設定をした上で、ターゲット層へ向けてのプロフィールを作成する
4	惹きつける物の写真の撮り方①	写真の構図や角度について、魅力的な撮り方について
5	惹きつける物の写真の撮り方②	写真の構図や角度について、魅力的な撮り方について
6	惹きつける人物写真の撮り方①	お客様や自分自身をとる際の写真の構図、角度やぼかし技術について

7	惹きつける人物写真の撮り方②	お客様や自分自身をとる際の写真の構図、角度やぼかし技術について
8	効果的な投稿のあげ方①	投稿アプリを利用して、文章の組み立て方、つくり方を学び投稿してみよう
9	効果的な投稿のあげ方②	投稿アプリを利用して、文章の組み立て方、つくり方を学び投稿してみよう
10	ストーリー配信について	短編動画や写真を加工し有効的なストーリーを作成、使い方、機能の紹介
11	リール機能の効果的な使い方	30秒の短編動画を撮影し効果的な投稿について学ぶ
12	ライブ配信について	ライブ配信をする際のポイントや効果的な方法を学ぶ
13	成績評価	理解度の確認
14	フォロワー数について	フォロワーを上げるコツ、効果的な投稿をし続けられるために
15	総復習	これまでのまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	自己プロデュース		
必修選択	選択	(学則表記)	自己プロデュース		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	客観的な分析力と表現力を身に付ける
到達目標	・プロデュースとは何かを理解する ・自分自身のセールスポイントを理解し、人に伝えられるようになる
評価基準	テスト・小テスト：６０％　授業態度：２０％　レポート・課題など：２０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	WEB・SNS・フォトスキル、スマホ・フォト技術
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 自己プロデュースとは	講師の自己紹介 授業概要の説明 自己プロデュース能力の重要性について
2	自己分析①	自分の現状を知る
3	自己分析②	理想の将来像を考える
4	ブランドとは	ブランドの価値を学ぶ ブランド発想を身に付ける
5	ブランドのマネジメント	ブランドづくりのマネジメント（PDCA）を身に付ける コンセプトの重要性を学ぶ

6	ブランドとネーミング	ネーミングを実践する 自分を表すキャッチコピーを作成する セルフブランディング能力を身に付ける
7	成績評価①	理解度の確認
8	セールスライティング①	伝える技術を身に付ける ベネフィットの重要性を学ぶ
9	セールスライティング②	お客様がサービスを受けたいと思う理由を考察する USP（唯一無二のセールスポイント）の重要性を学ぶ 売れる文章の書き方を実践する
10	アナウンススキル	笑顔と笑声を身に付ける
11	プレゼンテーション①	PREP法を身に付ける プレゼンテーションとは何かを学ぶ
12	プレゼンテーション②	プレゼンテーションを実践する フィードバック
13	インフルエンス	どのような構造でインフルエンスされているのかを学ぶ SNSのトレンドと傾向を知る
14	成績評価②	理解度の確認
15	総合授業	これまでのまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	パーソナルスタイル		
必修選択	選択	(学則表記)	パーソナルスタイル		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	自分史上最高のキレイが手に入る 「顔」タイプメイク（教員のみ）		出版社	かんき出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	顔のパーツを最も美しく引き立てるメイク・理論を習得する		
到達目標	様々な顔タイプの知識を習得し似合うメイクを診断できる 美容現場でお客様へのアドバイス材料の一つとして提案ができるようになる		
評価基準	テスト・小テスト：70%　授業態度：10%　提出物：20%		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	カラーコーディネートⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 導入	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標・評価基準について
2	顔タイプ診断とは	顔タイプ診断について学ぶ
3	似合うメイクについて	似合うメイクについて学ぶ
4	顔タイプ「キュート・フレッシュ」	顔タイプ「キュート・フレッシュ」について学ぶ
5	キュートのメイク法	キュートのメイク法について学ぶ
6	フレッシュのメイク法	フレッシュのメイク法について学ぶ
7	顔タイプ「フェミニン・クール」	顔タイプ「フェミニン・クール」について学ぶ

8	フェミニンのメイク法	フェミニンのメイク法について学ぶ
9	クールのメイク法	クールのメイク法について学ぶ
10	ケーススタディ	診断実演を行う
11	自己診断（パーソナルカラー含む）	自分の顔タイプ・パーソナルカラーを診断する
12	個人ワーク　成績評価①	自分の顔タイプ結果をコラージュを作成する
13	メイクの実践	メイクを行う
14	テスト　成績評価②	テストを実施し理解度の確認を行う
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ビューティーフード		
必修選択	選択	(学則表記)	ビューティーフード		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	完全菜食があなたと地球を救う ヴィーガン(教員のみ)		出版社	ロングセラーズ	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容と健康に効果的な食の伝統と知識・食事法を理解する
到達目標	ヴィーガンを理解し、食事メニュー構成が出来るようになる
評価基準	テスト・小テスト：70%　授業態度：10%　提出物：20%
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	なし
関連科目	栄養学Ⅰ・栄養学Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 導入	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標・評価基準について
2	ベジタリアンとヴィーガンの歴史	ベジタリアンとヴィーガンの歴史とタイプについて学ぶ
3	肉食のデメリット・菜食のメリット①	肉食のデメリットを学ぶ
4	肉食のデメリット・菜食のメリット②	菜食のメリットを学ぶ
5	菜食の生活習慣予防効果	菜食の生活習慣予防効果について学ぶ
6	テスト　成績評価①	テストを実施し理解度の確認を行う
7	日本のヴィーガンの歴史	日本のヴィーガンの歴史について学ぶ

8	ヴィーガンに不足する栄養素とは	ヴィーガンに不足する栄養素について学ぶ
9	日本菜食「雑穀」について	日本菜食「雑穀」について学ぶ
10	砂糖の影響	砂糖・塩などの調理料や添加物の影響について学ぶ
11	七つの食習慣と5つの基本と 七つのキーフード	七つの食習慣と5つの基本と七つのキーフードについて学ぶ
12	テスト　成績評価②	テストを実施し理解度の確認を行う
13	個人ワーク	個人ワークを行う
14	プレゼン準備	プレゼン発表の準備を行う
15	プレゼン発表と総まとめ　成績評価②	プレゼンの発表と総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	サロンワークⅠ－F		
必修選択	選択	(学則表記)	サロンワークⅠ－F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、トラブルの回避を自身で考え対応でき、実践を通して技術を習得する		
到達目標	お客様に施術などの説明ができ、満足の頂ける技術及び接客が出来る		
評価基準	授業態度他20％・接客態度他40％・技術レベル40％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNAジェルネイル検定初級・JNECネイリスト検定3級		
関連科目	ネイル教科全般		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	JNEC３級検定実技①	JNEC３級検定に向けて最終練習
2	JNEC３級検定実技②	JNEC３級検定に向けて最終練習
3	JNEC３級検定実技③	JNEC３級検定に向けて最終練習
4	導入　サロン運営とは①	カウンセリング・プロとしての身だしなみ・心構え・言葉遣いなど
5	導入　サロン運営とは②	道具の管理・予約票・カルテ管理・集客方法(SNS活用)など
6	バーチャルサロン準備①	グループに分かれてバーチャルサロンを立ち上げる

7	バーチャルサロン準備②	グループに分かれてバーチャルサロンを立ち上げる
8	バーチャルサロン	グループ発表 教室をサロンに見立ててシミュレーション
9	サロンワーク技術①	ジェルアートサンプル作り
10	サロンワーク技術②	ジェルアートサンプル作り
11	サロンワーク技術③	パラフィン・トリートメントについて
12	サロンワーク技術④	パラフィン・トリートメントについて
13	サロンワーク技術⑤	模擬サロン・ロープレ
14	サロンワーク技術⑥	模擬サロン・ロープレ
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	パーソナルコーディネートⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	パーソナルコーディネートⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	外見を創り上げる基本要素を押さえパーソナルカラー、色彩心理、TPOに合わせ戦略的に外見を味方につけられるよう演出能力を創り上げる。
到達目標	様々なオーディションにて、確実に結果を手に入れられるよう外見を整えていく。
評価基準	テスト40％、小テスト30％　授業態度30％
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	外見の序章	外見を創る３つの柱について
2	パーソナルカラーとは	パーソナルカラー復習＆実践との違いについて
3	パーソナル診断	パーソナルカラー（10パターン）を見つけ出す
4	パーソナルカラー復習	パーソナルカラー（実践）
5	カラーコーディネイト①	カラーコーディネイトテクニック①　小テスト
6	カラーコーディネイト②	カラーコーディネイトテクニック②

7	Audition対策①	外見的必要性を説明
8	Audition対策②	実際に必要な外見
9	Audition対策③	全体をどのように作っていくか総合的に実践
10	Audition対策④	オーディション直前にてすべての総合確認
11	パーソナルカラー個人①	顔周りに影響するパーソナルカラー
12	パーソナルカラー個人②	顔周りに影響するパーソナルカラー
13	カラーコーディネイトアドバンス	スタイリストテクニック
14	テスト	カラー、コーディネイト、スタイリストテクニック
15	総合学習	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ヘア＆メイク		
必修選択	選択	（学則表記）	ヘア＆メイク		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	メイク道具一式・メイクテキストベーシック・問題集 ヘアアレンジ一式、ヘアアレンジテキスト		出版社	ユアサポート	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	前期に学んだ基礎を生かしテーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す 頭部の骨格を知り髪の毛の扱い方からヘアアレンジまでを習得し、実践していく
到達目標	メイクの基礎技術からフルメイクまで出来るようになる ピニングやゴムの結び方など基礎技術、撮影現場に合わせた応用のセルフヘアアレンジが出来る
評価基準	テスト30％、検定取得20%、提出物30％　授業意欲20％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	メイクアップ検定ベーシック
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元		内容
1	メイク ヘアー	フルメイク/座学 教材確認・授業説明	検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト) ウィッグ・クランプの取り扱い方
2	メイク ヘアー	フルメイク/座学 頭部ブロッツク名称、ブロッキング、ポニーテール	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う) コーム・ブラシの扱い方
3	メイク ヘアー	フルメイク/座学 シニョン	フルメイク(シャープ) ゴム隠しの方、アメピンの止め方

4	メイク ヘアー	フルメイク/座学 網込み①	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う) 表編み込み・裏編み込み
5	メイク ヘアー	フルメイク/座学 網込み②	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 片編み込み、フィッシュボーン
6	メイク ヘアー	フルメイク/座学 編み込み③	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う) 応用、ピニング（外止め）
7	メイク ヘアー	苦手克服 アイロン	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う) 座学(問題集にて検定対策を行う) 取り扱い・理論・実習、棒アイロン直径に合わせた仕上がりの違いを知る
8	メイク ヘアー	プレ検定 アイロン	スキンケア10分・フルメイク35分行う テスト扱いとする ストレートアイロンの使い方(ストレート、波ウェーブ)
9	メイク ヘアー	セルフメイク① 骨格・バランス診断	テーマ(クライアント)に合わせたメイクを仕上げれるようにする 自分に合うヘアースタイル、バランスのポイントを知る
10	メイク ヘアー	セルフメイク② 創作スタイル	テーマ(クライアント)に合わせたメイクを仕上げれるようにする 復習を兼ねた創作スタイル
11	メイク ヘアー	セルフメイク③ シチュエーションに合わせた自分に合うヘアアレンジ①	テーマ(クライアント)に合わせたメイクを仕上げれるようにする アイロンの使い方 スタイリング剤、ヘアケア用品の使い方を学ぶ
12	メイク ヘアー	セルフメイク④ シチュエーションに合わせた自分に合うヘアアレンジ②	テーマ(クライアント)に合わせたメイクを仕上げれるようにする アイロンの使い方 スタイリング剤、ヘアケア用品の使い方を学ぶ
13	メイク ヘアー	セルフメイク⑤ シチュエーションに合わせた自分に合うヘアアレンジ③	テーマ(クライアント)に合わせたメイクを仕上げれるようにする アイロンの使い方 スタイリング剤、ヘアケア用品の使い方を学ぶ
14	メイク ヘアー	セルフメイク⑥ シチュエーションに合わせた自分に合うヘアアレンジ④	テーマ(クライアント)に合わせたメイクを仕上げれるようにする テスト/振り返り セルフアレンジ テスト/振り返り
15	—	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	着付けⅢ		
必修選択	選択	(学則表記)	着付けⅠーH		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	教本・お太鼓枕・帯板・伊達締め・新伊達締め・腰ベルト・腰ひも（モスリン（4点））・和装スリップ（下着）・クリップ（2本セット）足袋		出版社	桜花出版 KWプロジェクト	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	着付に関する知識・基礎技術を身につける。
到達目標	着付に関する技術の習得や付随する知識を蓄えることが出来る。 技術の習得目安として、 　・着付け３級（１２月強制受験　免許強制） を取得することが出来る。
評価基準	検定試験：４０％　　テスト：３０％　　授業態度：３０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	一般社団法人日本きもの文化連絡協議会もしくは、 一般財団法人京都きもの伝承文化協会の　きもの着付け資格
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、授業ルールについて、到達目標について、教材小物の説明・記名、考査票の記入、足袋サイズの確認
2	小紋の着せ方１	補整、長襦袢の着せ方、たたみ方を学び実践する

3	小紋の着せ方２	小紋の着付（裾線、衿合せ）、たたみ方を学び実践する
4	小紋の着せ方３	小紋の着付（お端折の作り方）を学び実践する
5	小紋の着せ方４	半幅帯（蝶結び）の結び方を学び実践する 小テスト（着物の名称）を実施する
6	小紋の着せ方５	小紋の着付を仕上げる（検定対策）
7	小紋の着せ方６	小紋の着付を仕上げる（検定対策）
8	小紋の着せ方７	小紋の着付を仕上げる（検定対策）
9	検定向上会	総仕上げ、検定試験の流れについて
10	検定試験	着付け３級検定（小紋の着付と蝶結び（２０分））を実施する たたみ方テストを実施する
11	座学	着物の名称と用語（プリント①②）について 試験結果を通知する
12	浴衣の着せ方	浴衣の着せ方、半幅帯バリエーションを学び実践する
13	小紋と名古屋帯１	お太鼓結びでの普段着（小紋）着付を学び実践する
14	小紋と名古屋帯２	お太鼓結びでの普段着（小紋）着付を学び実践する
15	総合学習	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	栄養管理Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	栄養管理Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	健康的で美しい体を目指すために正しい知識を身に付け、今後のボディメイクに役立てる。
到達目標	健康的で美しい体を作るための知識を身に付け実践する
評価基準	テスト40％・小テスト30％・授業態度30％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	ダイエット検定２級(任意)
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	自分を知る	体重測定・現状のサイズを測り、目標の設定をする
3	運動とダイエット	運動の必要性を知る、食生活チェック
4	栄養素	六大栄養素について、食生活チェック
5	栄養素と水	必要な水分量を知る
6	栄養素と水	必要な水分量を知る　小テスト

7	振り返り	振り返り
8	フードチョイス①	健康で美しい体を作る食事の選び方　食生活チェック
9	フードチョイス②	健康で美しい体を作る食事の選び方　食生活チェック
10	むくみとダイエット	むくみの原因とむくみに効果的な食事　食生活チェック
11	腸内環境	腸内環境について
12	ストレスとダイエット	ストレスとダイエットの関係　ストレスチェック
13	睡眠とリラックス	睡眠とダイエットの関係　食生活について
14	テスト	成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ウォーキングⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ウォーキングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	モデルとしての意識を持ち、今の自分（体型や個性）を自覚し、美しいウォーキングの技術を学びながら、クラスのレベルを上げる。
到達目標	モデルに必要な基礎筋肉や中心軸を鍛えながら骨格を整え全身を引き締め、1年次のうちにウォーキングの基礎を身につける。
評価基準	テスト：40%　小テスト：30%　授業態度：30%
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	正しい姿勢と歩き方	自己紹介、骨格チェック、基本姿勢、ウォーキング前足
2	ウォーキング基本①	ウォーキング　前足、後ろ足の使い方
3	ウォーキング基本②	ウォーキング　前足、後ろ足、腰の使い方
4	ウォーキング基本③	基本ポーズ、ターンの基本
5	ウォーキング基本④	基本ポーズ、ターンの応用
6	ウォーキング基本⑤	基本の一往復、小テスト

7	オーディション対策①	正しいシューズの選び方、ハイヒール基礎
8	オーディション対策②	オーディション対策基礎編
9	オーディション対策③	オーディション対策応用編
10	ウォーキング基本⑥	オーディション振り返り/個人レベルチェック
11	ウォーキング基礎⑦	腕の振り、リズミング
12	ウォーキング基礎⑧	振り返り授業内容
13	後期復習	テスト課題授業/プリント配布
14	テスト	期末テスト
15	総合学習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ポージングⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ポージングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	モデルとは何か何を使えなくてはならないのかモデルとしての基礎・基本を理解してもらう
到達目標	モデルとしての基礎知識を十分に理解し２年次の実技授業にｽﾑｰｽﾞに進めるようになる
評価基準	テスト40％、小テスト30％、授業態度30％
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自己紹介、授業内容説明	地方校から来た子もいるので、目標確認の為にも自己紹介をしてもらう
2	基礎ポージング①	ポージングの必要性・基本ラインについて
3	基礎ポージング②	ポートフォリオについて
4	基礎ポージング③	ポーズの原点について
5	基礎ポージング④	オーディションに受かりやすさについて
6	基礎ポージング⑤	バストショットのポージングについて

7	基礎ポージング⑥	自然な表情について
8	基礎ポージング⑦	上半身のポージングについて
9	基礎ポージング⑧	広告のお仕事について
10	モデルオーディション対策	モデルオーディション対策
11	モデルオーディション対策	モデルオーディション対策
12	基礎ポージング⑨	広告のお仕事について
13	基礎ポージング⑩	課題発表後基礎ポージング
14	テスト	テスト
15	総合学習	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ボディエクササイズⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ボディエクササイズⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	ヨガマット		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	自宅でできるエクササイズをやり方、正しいフォーム等を覚え生活の中で身体を動かす習慣付けをする
到達目標	授業を通じそれぞれのレベルで苦手種目をできるようにし、健康で美しいメリハリボディを目指す
評価基準	テスト40％、小テスト30％、授業態度30％
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	運動必要性と効果	オリエンテーション
2	美しいボディライン作り	部位別エクササイズ
3	美しいボディライン作り	部位別エクササイズ
4	美しいボディライン作り	部位別エクササイズ
5	美しいボディライン作り	部位別エクササイズ
6	美しいボディライン作り	部位別エクササイズ

7	美しいボディライン作り	サーキットトレーニング 有酸素運動
8	美しいボディライン作り	サーキットトレーニング 有酸素運動
9	美しいボディライン作り	サーキットトレーニング 有酸素運動
10	美しいボディライン作り	サーキットトレーニング 有酸素運動
11	美しいボディライン作り	サーキットトレーニング 有酸素運動
12	美しいボディライン作り	サーキットトレーニング 有酸素運動
13	美しいボディライン作り	サーキットトレーニング 有酸素運動
14	テスト	テストの実施
15	総合学習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	セルフプロデュースⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	セルフプロデュースⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	世界基準の美を創る　ビューティメソッド５５		出版社	ポプラ社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	根本的な一人一人の強みと弱みを自分自身で理解をし、”自分を知る”事で自己ＰＲを上手くしてく作業を中心に展開する授業。
到達目標	自分自身を理解し、どのようにこの業界を生きて抜いていくかを自分で発見＆自信を見つけ出させる事。
評価基準	テスト40％、授業態度30％、小テスト30％
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自己・クラス紹介＆面談スタート①	クラスルール/各生徒行きたい方向性について①
2	芸能事務所を知る＆面談スタート②	芸能事務所の違い/各生徒行きたい方向性について②
3	自分分析/自分自身の感性の使い方①	五感の使い方_自分の特性理解①
4	自分分析/自分自身の感性の使い方②	五感の使い方_自分の特性理解②
5	自分分析/自分自身の感性の使い方③	五感の使い方_自分の特性理解③実践
6	自分分析/３つのイメージ	自分の持つ3つのイメージ把握＆コントロールの仕方

7	Model Auditon対策Ⅰ	オーディションに必要な最低条件
8	Model Auditon対策Ⅱ	これから必ず必要となる外見/内面すべてを整える基準ルールを各人に確認させる
9	Model Auditon対策Ⅲ	総合対策について
10	モチベーション作り	反省会
11	自分自身の感性の使い方④	自分自身を知る具体的作業復習
12	自分自身の感性の使い方⑤	自分を創り上げる３つの柱
13	Discussion	グループレッスン
14	テスト	テスト
15	総合学習	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ボイストレーニングⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ボイストレーニングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	話し方が与える第一印象の重要性を理解し、印象良く話す為に基礎知識を身に付けさせる
到達目標	専門知識、用語まで理解をさせ印象の良い話し方を習得させる
評価基準	テスト40％、小テスト30％、授業態度30％
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	人前で話してみる	自己紹介を発表する・発表に適した声の大きさや明るく話せているかをチェックする
2	どのような話し方が印象が良いのか	ＴＰＯに合わせて求められるもの、なぜモデルが話すのか、話すという仕事について理解をさせる
3	専門的な用語や語句１	専門的な用語や語句について
4	専門的な用語や語句２	専門的な用語や語句について
5	腹式呼吸１	腹式呼吸の重要性について・方法
6	歌１	歌をうたうポイント1

7	歌２	歌をうたうポイント2
8	文章を読むテクニック１	テクニック１
9	文章を読むテクニック２	テクニック２
10	文章を読むテクニック　小テスト	短い文章を読んでみる
11	モデルオーディションに向けて１	オーディション対策
12	モデルオーディションに向けて２	オーディション対策
13	モデルオーディション振り返り	緊張の影響について・克服の仕方
14	テストの実施	テスト
15	総合学習	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	演技Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	演技Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	脚本において、自分の周りの状況を把握し、役作りをして、役の感情を相手に伝えられる様にする
到達目標	己を知り自己解放から役を作り役に応じた声や話し方、動作で感情を伝える
評価基準	テスト40％、授業態度30％、小テスト30％
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自己紹介・導入	演技について基本的学習の説明
2	発声・滑舌	腹式呼吸について
3	発声・滑舌	発声について
4	動作	表現について
5	動作	表現について
6	エチュード	課題の設定について

7	エチュード	課題の設定について
8	エチュード	課題の設定について
9	感情変化	喜怒哀楽について
10	感情変化	喜怒哀楽について
11	感情変化	喜怒哀楽について
12	試験題材	試験対策
13	試験題材	試験対策
14	テスト	テスト
15	総合学習	総まとめの実施

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	撮影Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	撮影Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	撮影の基本姿勢を考え、ポージングを作れる意識づくりをできるようにする。自分をアピールする長所と短所を理解し、独自のコンポジットブック作成の方法論を考える。
到達目標	撮影の意図を意識して、自分ならではの表現・ポージングが行えるようになること。
評価基準	テスト40％、小テスト30％、授業態度30％
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自己紹介/撮影	講師・生徒の自己紹介・授業計画・プロフィール撮影
2	写真セレクトについて プリント作業について	選んだ写真でプリント作業の仕方について
3	ポージングについて ポージング撮影（01）	ポージングについて
4	ポージング撮影（02） 宣材写真について	自分にあうポージングで撮影
5	撮影講座（宣材撮影1）	オーディション用の宣材撮影
6	撮影テーマについて 撮影講座（宣材撮影2）	「撮影テーマ」を理解するための方法論について

7	写真を読むということ ブックの考え方・作り方（01）	そもそも写真とは何か？
8	撮影における長所と短所を知る ブックの考え方・作り方（02）	写真における自分の長所と短所
9	撮影講座（課題撮影）	撮影
10	宣材撮影＆イメージ撮影	学んだこと生かして、宣材撮影。
11	撮影講座（課題撮影）	課題撮影
12	ロケ撮影	ロケ撮影
13	ブックの考え方・作り方	写真プリント、レイアウトなどを修正
14	テスト	テスト
15	総合学習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	メンタリティーメイキングⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	メンタリティーメイキングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	モデル（芸能界）に向けての意識改革と揺るがない精神の土台をつくる
到達目標	モデル（芸能界）に向けての方向性の徹底
評価基準	テスト40％、小テスト30%、授業意欲30％
認定条件	出席が総時間数の３分２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	五感を磨く	自らの持つ五感について
2	プロ意識とは？	意識改革について
3	集中力	心理テストやゲーム、実践
4	瞬発力	心理テストやゲーム、実践
5	継続力と忍耐力	心理テストやゲーム、実践
6	フェイストレーニング	豊かな表情づくりを実践

7	自分を癒す術	困難な問題に対して
8	自分を楽しむ術	ポジティブに考えられる精神について
9	自己アプローチスタート	オーディションに必要なアプローチを実践
10	自己アプローチ実践①	自己アプローチトレーニング&特技
11	自己アプローチ実践②	自己アプローチトレーニング&特技
12	コンプレックスを考える	コンプレックスについて
13	ﾓﾃﾞﾙｵｰﾃﾞｨｼｮﾝ最終チェック	オーディションに必要なアプローチ総仕上げ
14	テスト	テスト
15	総合学習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ－Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップⅠ－Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	インターンシップ手帳		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容に携わるお仕事スタッフとして必要とされる社会人基礎力を身に付ける
到達目標	・社会人として必要な基礎スキルが身に付いている ・相手の立場に立った物事の考え方ができる ・社会へ出てから必要な言葉遣いや接客マナーを実践できる
評価基準	①企業側評価75%(評価表にて採点) ②学校側評価25%(レポート提出にて採点)
認定条件	・実質時間数が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ－Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	インターンシップⅠ－Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	インターンシップ手帳		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容に携わるお仕事スタッフとして必要とされる社会人基礎力を身に付ける
到達目標	・社会人として必要な基礎スキルが身に付いている ・相手の立場に立った物事の考え方ができる ・社会へ出てから必要な言葉遣いや接客マナーを実践できる
評価基準	①企業側評価75%(評価表にて採点) ②学校側評価25%(レポート提出にて採点)
認定条件	・実質時間数が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ－Ⅲ		
必修選択	選択	（学則表記）	インターンシップⅠ－Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	インターンシップ手帳		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容に携わるお仕事スタッフとして必要とされる社会人基礎力を身に付ける
到達目標	・社会人として必要な基礎スキルが身に付いている ・相手の立場に立った物事の考え方ができる ・社会へ出てから必要な言葉遣いや接客マナーを実践できる
評価基準	①企業側評価75%(評価表にて採点) ②学校側評価25%(レポート提出にて採点)
認定条件	・実質時間数が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ－Ⅳ		
必修選択	選択	（学則表記）	インターンシップⅠ－Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	インターンシップ手帳		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容に携わるお仕事スタッフとして必要とされる社会人基礎力を身に付ける
到達目標	・社会人として必要な基礎スキルが身に付いている ・相手の立場に立った物事の考え方ができる ・社会へ出てから必要な言葉遣いや接客マナーを実践できる
評価基準	①企業側評価75%(評価表にて採点) ②学校側評価25%(レポート提出にて採点)
認定条件	・実質時間数が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	